

アメリカに分布し、前者には無性生殖器官がなく、後者は無性生殖器官として粉芽をもち、この両者は Poelt (1972) のいう Artenpaar の関係にあるものと考えられる。さらに、無性生殖器官のない *P. praesusueta* と、粉芽をつける *P. insueta* はともにニューギニア特産種で、この両者も同様な関係にあるものと考えられる。一方、すでにジフラクタ酸の産出が報告されている *P. diffractaica* では、バルバチン酸は検出されなかった。なお、*P. diffractaica* は subgenus *Parmelia* に属し、マツゲゴケに近縁の種である。

□Goff, L. J. (ed.): **Algal symbiosis**. 216 pp. 1983. Cambridge Univ. Press, London. ¥12,500. 共生の問題は古くから生物学者の興味をひいてきたテーマであるが、最近、種々の共生生物が特異かつ有用な生理活性物質を生産することが知られるに及び、広く化学、薬学、農学等の人々からも注目されるようになった。本書は藻類と他の生物群との共生を扱った書物で、北米植物学者による第三回合同会議が1980年にカナダ・ヴァンクーヴァーで開催の折に行われた同名のシンポジウムの講演を収録する。序章を除く9章から成り、1. 動物と藻の共生についての総論、2. サンゴと渦鞭毛藻、3. 有孔虫と渦鞭毛藻、緑藻、珪藻など、4. 放散虫と渦鞭毛藻やプランクトン藻など、5. 原緑藻類 *Prochloron* とホヤ、6. 軟体動物体内における葉緑体の生存、7. アカウキクサと藍藻アナバ、8. 地衣体における藻と菌、9. 種子植物の葉や果実内の緑藻、特に *Cephaleuros* と *Phycopeltis*、などの共生関係に関する分類、形態、生態、生理、生化学の最近の知見が盛られている。
(千原光雄)

□Ettl, H.: **Grundriss der allgemeinen Algologie**. 549 pp. 1980. Gustav Fischer Verlag, Stuttgart. ¥8,880. 藻類や菌類の教科書は対象群を門や綱ごとに記述したものが多く、また構造と機能を章ごとに取り上げて、細胞、個体、群落といった順序で記述したものもある。本書は後者に属する藻類の教科書で、序論・藻類の定義等 (1-19) に続く細胞 (20-183)、形態 (184-258)、生殖 (259-363)、生活環 (364-383)、分類群の概観 (384-439)、生態と分布 (440-485) と巻末の文献 (486-522) と索引 (523-549) で構成される (カッコ内は頁数)。162頁を費した「細胞」の章は最近の電子顕微鏡による研究成果もよく取り入れ、優れた内容である。著者は淡水産の単細胞性や群体性藻類の分類に秀れ、緑藻 *Chlamydomonas* (1975) や *Carteria* (1979) などについての千頁余のモノグラフの作成やパッチャー以来の伝統をもつ “Süßwasserflora von Mitteleuropa” の編集・著作などで知られる当代の斯界を代表する学者の一人である。
(千原光雄)